

～津波自主避難マップ作成～

津波ワークショップ

品川第一地区において、品川区河川下水道課による津波ワークショップが全3回にわたり、台場小学校にて開催されました。

第一回・第二回は、津波に関する基礎知識や避難方法、津波自主避難マップの作成方法などの講習が行われ、ともに100名以上の方が参加されました。

東日本大震災発生以降、地震や津波の様々な被害想定が出され、不確定な情報に惑わされ不安にさらされることが多くなっています。

今回のような、自分たちの住んでいる地域に絞った津波に関する講習が行われることは、品川第一地区の住民にとっては、非常に有意義なものでした。

また、意見交換の場面では、地域住民の方から様々な意見が



出され、津波がもし発生した場合にどう行動するかを、真剣に議論し、熟考することができました。

第三回では、地域の情報図を参考に避難経路を考え、その後、



実際に各自で設定した避難経路を歩き、自分の“津波自主避難マップ”を作成する作業を行いました。

町歩きでは、自分の避難マップを見ながら、危険物や崩れてきそうな壁や塀・建物があれば経路を変更するなど、想像力を働かせながら、実践で使える避難マップを作成していました。



また、最後に、参加者から実際に避難経路を歩いてみての感想や意見などが発表されました。

* 河川下水道課では、今回の津波ワークショップを通じて得た区民の意見や考えをまとめ、平成25年2月に「津波自主避難マップ作成マニュアル」と「津波自主避難マップ」を公開する予定です。

◎第一回 平成24年9月20日(木) 午後7時～8時30分

参加人数 約140名

◎第二回 平成24年10月18日(木) 午後7時～8時30分

参加人数 約110名

◎第三回 平成24年11月10日(土) 午後1時30分～4時30分

参加人数 33名

(以下、配布資料より抜粋)

1. 防潮堤について

東京湾側は、海拔3.5m以上の防潮堤で囲まれている。

・東京湾北部地震の津波想定における最大津波高

→ 海拔1.41m (品川区)

・元禄型関東地震による津波想定における最大津波高

→ 海拔2.61m (品川区)

・南海トラフ地震による津波想定における最大津波高

→ 海拔2.2m (品川区)

⇒ 防潮堤を超える高さの津波は想定されていない

2. 品川第一地区管内の地域の現状

- ・品川浦周辺において、発災時に水門が閉まらなかった場合に、浸水の恐れがある。
- ・旧東海道は、海拔5m以上ある。
- ・海側の地域は、比較的、液状化の可能性が高い。
- ・火災や建物倒壊の危険度は比較的低い。
- ・細街路が多く、東西方向にわたる道路が少ない。

3. 津波自主避難マップ

想定外の津波が発生したら、まず自分の命を守ることが最優先。もし、津波がヒザの高さまでであると、大人でも立ってられないものとなります。また、津波は時速36km(100mを10秒で進む)の速さで襲ってくるので、津波が見えてから逃げても間に合いません。

想定外を想定し、“いざ”という時の対応力(想像力・判断力・行動力)を養うために、自分で『津波自主避難マップ』を作成してみましょう。

《作り方の概要》

高台・高い建物を避難場所として設定し、そこまでの避難経路を複数考え、実際に現地を歩き、周辺の状況を調査します。ポイントは、「全て自分の手で書き、自分の足で調査する」ことです。

* 津波自主避難マップに正答は無く、答えは一つでもありません。普段の生活の中で問題意識を持ち、日ごろから考えておくことが大切です。

八ツ山町会・防災セミナー

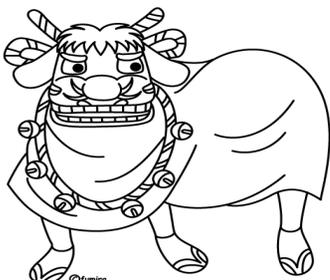
平成24年11月18日(日)、八ツ山町会・防災部主催による防災セミナーが品川自動車営業所内の体育館にて開催されました。

今回の防災セミナーでは、品川区河川下水道課水辺の係の職員を講師に招き、津波の基礎知識や東京都・



国による被害想定、また八ツ山町会地域の現状などの講習を受けました。

参加者の方々からは、多くの質問が出され、非常に活発で有意義なセミナーでした。



☆ ボウリング大会開催 ☆

平成24年12月16日(日)青少年対策品川第一地区委員会は、品川プリンスホテルボウリングセンターでボウリング大会を実施しました。

参加者一般の部(中学生以上)が48人、小学生の部が50人、ひとり2ゲームの合計得点で順位を競いました。

一般の部の優勝者は総得点292(ハンディキャップ10含む)の中学3年生、小学生の部優勝者は総得点292(ハンディキャップ20含む)の小学生3年生でした。

優勝者にはトロフィーと賞品が、その他2位、3位、ブービー賞、飛び賞が贈られました。

